

# 安心・安全—高齢者には安心と充実を、障がい者には理不尽さを感じさせない社会を



## 7 救急車たらい回し「ゼロ」

救急車のたらい回しで、助かるはずの命が助からない、そんな報道が日常のようになっています。千葉県は人口10万人当たりの医師数は161人(2008年)、これは全国45位で最低レベルです(全国平均213人)。将来の医師確保のための医学部の定員増や、若くして退職した女性医師・看護師が再勤務しやすくするための環境整備、医療情報の共有化や救急時のトリアージの徹底などによる限られた医療資源の効率的な運用など、千葉県の医療復活を実現します。

## 8 ガン対策先進県

2人に1人がガンに罹患し、3人に1人がガンで亡くなります。しかし、ガン検診の受診率は胃ガンの場合でも約15%と大変低く、また「家で死を迎えたい」という在宅ターミナルケアへの対応もまだまだ不十分です。県立がんセンターの老朽化対策も必要です。ガンの予防、診療、先端医療、終末期などの全ての分野において、ガン対策先進県を目指します。

## 9 「選べる福祉」と「安心できる地域」

特別養護老人ホームの待機者数は、約2万人。入りたくても入れない状態が続いています。一生涯を安心して暮らしていくためには、県民のニーズに対応した様々な福祉サービスを、県民が選択できることが求められています。グループホームや施設などの基盤整備と、サービスメニューの精査と充実を更に進めていきます。

また、地域で安心して暮らしていける、防犯・防災対策の充実も急務です。

# 環境と街づくり—地球環境には行動を、街づくりには新しい時代の視点を

## 10 千葉県版グリーンニューディール

「グリーンニューディール」、環境やエネルギーなど、新しい分野の開発に積極的に取り組み、将来の経済発展や雇用の創出のための種をまいていくことが必要です。欧州に取り残されつつある地球温暖化対策について、千葉県は積極的に取り組みます。

## 11 千葉の自然を次世代に残し、地球と共生する千葉づくり

三番瀬、手賀沼、九十九里浜……。千葉県は素晴らしい自然に囲まれています。一度壊された自然を、元に戻すのは容易ではありません。次世代に千葉の自然を残していきます。

## 12 生活重視の公共事業

川崎と木更津を結ぶアクアラインは、1兆5,000億円をかけて、作られました。一方、県が行っている公共工事は年間1億5,000万円。しかしながら、例えば県道の歩道の整備率は56%。生活に密着した公共工事の遅れが目立っています。大規模工事から、歩道整備や交差点改良、合併浄化槽の設置の推進など、地域経済に密着した生活重視型の公共事業へと転換します。



三番瀬の自然型護岸